# 学　会　記　事

## 第9回新潟急性腎不全治療研究会

日　時　　平成14年10月24日（木）
会　場　　有壬記念館

### 一　般　演　題

#### 1　急性腎不全を呈したマイコプラズマ肺炎に伴う急性糸球体腎炎の一例

山崎　　肇・田沼　厚人・遠藤　禎郎
関口　珠美・佐伯　敬子・宮村　祥二
上野　光博*・西　　慎一*・
下条　文武*
長岡赤十字病院内科
新潟大学大学院腎膠原病内科学分野*

症例は75歳の女性．生来健康であったが，2002年5月25日頃から咳嗽，発熱が出現．左中下肺野に浸潤影が出現し，5月30日セフェム系抗生物質無効の肺炎として当院呼吸器科に入院．クラリスロマイシンとイミペネムの加療が開始され，炎症反応は改善傾向にあった．入院後の血清検査によりマイコプラズマ肺炎と診断されたが，6月10日頃から浮腫，高血圧，乏尿が出現．高窒素血症，肺うっ血のため6月15日から血液透析に導入された．6月18日に腎生検が施行され，びまん性の管内増殖性腎炎と尿細管間質性腎炎の所見であった．6月末から利尿がつき始め，血液透析を離脱したが，血尿ならびにネフローゼ状態が持続した．アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬を開始して経過観察を行い，現在24時間クレアチニンクリアランス60ml/分，尿蛋白0.9g/日まで改善してきている．

マイコプラズマ肺炎後の急性糸球体腎炎，急性腎不全の報告はまれであり，文献的考察と併せて報告する．

#### 2　急性腎不全となり血液浄化療法を必要とした溶連菌感染後糸球体腎炎の女児の一例

村上　修一・森岡　良夫・上野　光博
西　　慎一・下条　文武・田中真美子*
鈴木　俊明*・大久保総一郎*
内山　　聖*
新潟大学大学院腎膠原病内科学分野
同　小児科学分野*

症例は8歳の女児．生来健康で，学校検診で異常を指摘されたことはなかった．平成14年2月7日に目が開けられないほどの眼痛，眼瞼浮腫のため近医を受診．アレルギー性結膜炎と診断され点眼薬を処方された．2月9日より39℃台の発熱と，嘔吐，下痢が出現．自宅にあったボルタレン坐薬50mgを使用し様子を見ていた．次第に呼吸困難，全身の浮腫が強くなるため，2月12日に村上総合病院小児科を受診．全身の浮腫，BUN 119mg/dl，Cre 3.3mg/dl，K 6.7mEq/lより急性腎不全と診断され，2月13日未明に当院小児科に救急車にて搬送され緊急入院した．入院後，急性腎不全，うっ血性心不全の診断でCHDFを施行したが，無尿が持続するため2月27日に腎生検を施行．高度の管内増殖性糸球体腎炎と急性尿細管壊死が認められたため，ステロイドパルス療法を2クール行ったところ，利尿が得られ透析治療より離脱できた．

#### 3　頭蓋咽頭腫手術歴のある急性腎不全の1例

荻野宗次郎
新潟労災病院内科

症例は65才女性．S53年，頭蓋咽頭腫の手術．S54年，下垂体前葉ホルモンの補充療法を開始．55年腫瘍の再発でBLMの局注治療．S56年に再手術，術後Co60照射療法施行．S57年，結節性紅斑で一時PSL 30mg使用．S62年，左側頭葉の放射線障害によると考えられた壊死組織が出現し摘出．H4年には，食欲不振と倦怠感で脳外科に入院．腎障害と高Na血症あり，輸液，副腎皮質および甲状腺ホルモン補充で軽快した．H12年，便秘による腸閉塞で内科に入院．この時，石灰化胆石

も指摘．H14年4月7日から吐気あり，食事や水分をほとんど摂取せず，4月10日発熱と著しい倦怠感で救急外来を受診．Cre 3.99mg/dl Na 157mEq/l CRP 18.1mg/dl．血圧の低下，腎障害，炎症反応があり入院．意識レベルの低下あり昇圧薬と輸液を開始し，入院翌日，高尿素窒素血症はさらに増悪しUN 79.6，Cre 5.25mg/dlと上昇．輸液を増やし利尿薬を併用，更に高Na血症ではあるものの，副腎クリーゼとしてヒドロコルチゾンを使用し症状は改善．5月中旬，再び倦怠感と食欲低下，更に発熱と同様の症状が出現し，輸液とヒドロコルチゾンを使用し改善．

一日尿量1680ml，Ccr 50.7ml/min，蛋白尿は陰性，血糖も正常．血漿浸透圧は298mosm/lと上昇しているにもかかわらず，尿浸透圧は164mosm/l．血中Naは150mEq/lに対し，尿のNaは28mEq/l．これらの状態で，ADHは1.6pg/mlで相対的分泌低下．視床下部性尿崩症と考え，6月中旬から，デスモプレッシンを一日5μgから開始し7.5μgを維持量とし，高Na血症は改善し，その後同様の症状は再発していない．

---

## 第44回新潟救急医学会

**日　時**　平成14年7月6日（土）
午後1時30分より

**会　場**　有壬記念館2階

### I．救急隊関連部門

#### 1　アセテート輸液製剤の特徴と製品紹介

内田美千代
日研化学（株）学術部

現在，輸液剤に配合されているアルカリ化剤には，乳酸Naと酢酸Naがある．酢酸は，乳酸と比較して光学異性体がなく代謝が速いという利点を持つ．また，乳酸が肝で主に代謝されるのに対して，酢酸は全身で代謝利用され易いという代謝面での優位性がある．今回，日研化学の輸液剤の共通した特徴であるアルカリ化剤としての酢酸Naの有用性について紹介する．また，アセテート輸液シリーズとして今年発売された5％ブドウ糖加アセテート維持液「ヴィーン3G」についても紹介する．

#### 2　催涙スプレーによる加害事故

進藤　弘
新潟市西消防署

近年の救急出動は複雑化する社会情勢に合わせるが如く多岐にわたっている．経験したことのない救急事案が増えており，常に危機管理意識をもって活動しないと，予期せぬ事態に遭遇した場合，適切に対処できないばかりか，救急隊員も危険にさらされることになる．119番通報の内容と現場の状況が，異なることは決してまれではない．したがって，事故現場に最先着する可能性の高い救急隊の任務は大きなウエイトを占める．日頃から管内の情勢に精通するとともに，通報内容及び現場の評価が重要である．今回，新潟市の歓楽街古町で発生した防犯用スプレーによる加害事故について紹介し，救急活動における問題点を検証する．

#### 3　除細動例の報告

小倉　孝明・豊岡　正則・進藤　弘
伊川　章・佐藤　晋・石黒　信義
新潟市消防署

【目的】新潟市において，救急救命士によって実施された傷病者に対しての除細動について，その現状と効果を明らかにする．

【対象と方法】1997年1月から2002年6月までに新潟市消防局の救急隊により心肺蘇生法を実施し搬送した傷病者1375名のうち，救急救命士が除細動を実施した98例について検討した．

【結果】救急救命士の増加とともに除細動の実施件数も増加し，除細動が実施できなかった事例は年々減少している．